平成21年第4回水道事業運営委員会 議事録

日 時：平成21年9月4日（金）午後2時00分～

場 所：石狩市役所5階 第1委員会室

事務局出席者：13名

田口室長、伊藤課長、下野課長、蛭谷主査、門馬主査、東主査、清野主査、
武藤主査、高橋主査、天池主査、三浦主任、伊藤主任、佐藤主任

委員出席者：11名

余湖 典昭、菅野 勲、佐藤 雅代、渡辺 信善、神田 一昭、安藤 牧子、
阿部 武雄、中村 善光、眞柄 泰基、小笠原 紘一、松井 隆文

傍 聴 者：2名

議 事：(1)石狩市水道事業変更届出書（合併に伴う水道の事業統合認可）について
（審議及び答申）

(2)報告案件等

簡易水道地区における委託

水道料金のこれから

第三者委託の評価

配 布 資 料：別添のとおり

記

伊藤課長 皆様こんにちは。本日はお忙しい中お集まりをいただきまして、厚く御礼を申し上げます。時間となりましたので、ただ今より平成21年第4回石狩市水道事業運営委員会を開催をいたします。

なお、本日は堂柿委員、土門委員及び永井特別委員につきましては、所要により欠席ということの連絡が入っておりますのでご報告申し上げます。

本日の会議進行次第につきましては、お手元にご案内のとおり前半はまず、簡易水道統合認可の届出書について前回に引き続きご審議をお願いし、審議の進み具合にもよりますが、順調にご審議が進みました場合には、その後答申を会長の方からいただくという予定であります。

後半は、報告案件と致しまして、第一点目に「簡易水道地区における委託」について、第二点目に「水道料金のこれから」ということで、水道料金の改定が今後の大きなテーマとなってきますが、その入り口ということで水道料金の仕組み等についての説明を、そして第三点目に第三者委託の評価について、平成20年度より実施しております第三者委託について、一年間の業務に関する評価についてご報告を申し上げます。

なお、本日の会議終了予定時刻ですが、ご審議の状況にもよりませんが、概ね午後4時30分頃を予定しております。

それでは余湖会長よろしくお願いたします。

余湖会長 それでは平成21年第4回の石狩市水道事業運営委員会を開催致します。

今日は皆さんお忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

それでは今日はまず最初に、前回の継続議題でございます内容の(1)番、石狩市水道事業変更届出書、合併に伴う水道の事業統合認可についてご審議をお願いします。

それでは事務局のほうからご説明をお願いいたします。

清野主査

工務課の清野です。前回に引き続きまして、私の方からは統合認可の「後編」についてご説明させていただきます。

予め皆様方には「石狩市水道事業変更届出書（案）」の後編が送られているかと思っております。事前に皆様にご確認いただき、より効果的なご審議をしていただきたいということで、先週末資料をお送りしております。皆様お手元に資料はございますでしょうか。

それでは、お手元にある資料をまず1枚めくっていただきますと目次が出ております。前回5月18日の審議では、この目次に出ております、第一章の「水道事業の変更を必要とする理由」から、第三章の3.2.2)給水人口及び給水量の算出根拠までをご説明させていただき、ご審議いただきました。本日はこの後編ということで、「3)経常収支の概算」以降についてご説明をさせていただき、引き続きご審議を賜りたいというように考えております。

続いて次のページをご覧ください。前回5月18日の委員会におきまして、眞柄先生の方からご指摘のございました、変更届出書の3-2-18ページになりますが、こちらの図-3.2.2.3、旧浜益区簡易水道の既計画給水人口、それと既計画施設能力につきましては、平成18年度の基幹改良事業の再評価を踏まえまして、ダウンサイジングさせた人口と施設能力に差し替えたいと思います。この次のページに掲載しているのがその差し替え分の資料ということです。

この点に関しましてはよろしいでしょうか。それでは差し替えをさせていただくということで、よろしくお願い致します。

次にこの届出書の全体の流れを見ていただきたいと思うのですが、3-2-34ページ、今回ご審議をいただくかなりのシェアを占める部分でございます「3)経常収支の概算」というものが、この頁以降連なっております。まずは全体の流れを見たいものですからまずは流して見ていきたいと思っております。次に3-2-35ページを見ていただきたいのですが、3-2-35ページでは「4)料金、給水装置工事費用の負担区分、その他の供給条件」ということで、次のページをご覧くださいと、「石狩市水道事業給水条例(案)」というものが示されております。この給水条例といたしましては、石狩市水道事業の給水についての料金並びに、給水装置工事の費用負担など必要な事項を定める条例でございますけれども、この中の一文が一箇所加筆させていただいております。どこを加筆したかといいますと、ページをめくっていただきますと、3-2-44ページ、こちらのほうの下に下線をひいた部分がございます。予定では来年の4月1日からは、現在ある簡易水道事業条例と上水道事業条例が「上水道事業条例」に一本化されます。つまり簡易水道事業条例がなくなってしまいます。このことを勘案し廃止前の簡易水道事業条例の規定によって処分されたものにつきましては、この一本化された条例の相当規定によって処分されたものとみなすという一文と、もう一つは統合予定の来年4月1日前行われるメーター点検に関わる料金については、過去の簡水条例に基づいた料金に従うというようなことが書いてあります。要は統合後、上水道事業の条例に一本化されて、実質簡易水道事業の条例がなくなるわけですから、過去に処分されたものなどが併せて失効となるのかということ、ここで否定しているということでございます。

またページをめくっていただきまして、3-2-49ページ、こちらの方に「5)給水区域が他の～」と書いてある場面ですが、次のページの3-2-50ページをご覧くださいと、他の給水区域と重複していないことを確認する場であるとともに、このような専用水道が設置されていますということを、次のページに出ておりますA3の図面をもって確認しているという場面でございます。また、続いて3-2-53ページでは、「6)譲受けの年月日並びに相手側の住所及び氏名」というものが3-2-54ページに示されております。続いて3-2-55ページにつきましては、「7)水道施設の位置を明らかにする地図」ということで、先程ご覧いただいた地図と同じものを添付してございます。そして最後に第四章として、一般平面図や施設フロー図などの各種図面を26枚添付することにしております。

これまでは全体の流れをご説明致しました。お分かりいただいたかと思いますが、今日ご審議いただく殆どの部分は、少し戻っていただきますけれども、3-2-34ページ「3)経常収支の概算」、つまり現在の上水道事業と三つの簡易水道事業が一つになったときでも、何らかの必要な措置を施し安定的な経営ができるかどうかを確認する部分が、その大宗を占めております。

次のページ、3-2-34-1をご覧くださいとありますが、「表-1 総括表」

というものが出ております。この下に、かなりのボリュームになりますけれども、表 - 2 から表 - 9 にいたるまで 24 枚の A3 の資料が掲載されております。この後ろの表 - 2 から、表 - 9 までの各シミュレーション並びに、数字の積算結果が根拠となりまして、今ご覧いただいております表 - 1 の「総括表」に集約されているということになります。つまり経常収支の部分につきましては、この「表 - 1」が結論ということになるわけですが、ご覧いただいておりますとおり、いずれも専門用語でありますとか、数字の羅列ということで、これだけを見ますと非常に分かり難いものですから、正面のスクリーンを使いまして、まずは水道事業会計全体の考え方をご説明した上で、表 - 1 に出ております「収益的収支」並びに「資本的収支」とはどのような考え方のものなのかということからご説明させていただこうと思っております。

ここからは画面のスクリーンをご覧いただきたいと思っております。まずはその「収益的収支」並びに「資本的収支」を説明する前に、委員の皆様方には水道事業会計はどういうようになっているかということから改めてご説明させていただきたいと思っております。

以前もご説明いたしました水道事業というのは、独立採算制で経営をしてきてございます。皆様のご家庭に水道水を供給するためには、浄水場や配水場それから配水管など、そういった施設が必要になってまいります。ですから我々水道事業者としましては、国などから起債を借りまして必要な工事をして、浄水場でありますとか、配水場並びに配水管といった基本的な社会インフラを整備致します。勿論この中には、現在我々が進めております、老朽管更新事業なども入ってくるというようにお考え下さい。それら施設によりまして水が作られ、皆様のご家庭に水道水が給水されるというような大きな流れになっております。正に水道事業とは、大きな装置産業でもあることがご理解いただけるかと思っております。

そのため当然、浄水場なり配水場では、電気代など多額のランニングコストが必要となります。これら背景がある中で市の浄水場などから各家庭に水が供給されまして、その対価として市に水道料金が支払われます。その水道料金はどのように使われるかといいますと、今ご説明したように起債でお金を借りておりますので、その返済と水を作るためのランニングコストなどの費用としても充てられることになっております。

簡単に言いますと、市の水道というのはこのようなサイクルで水とお金が回っていると申せますし、その中に市民の皆さんが水の消費者としていらっしゃるというような構図になっております。

続いて先ほど見ていただきました表 - 1 の「総括表」における収益的収支並びに資本的収支の基本的な考え方の説明になりますが、前者の収益的収支とは、皆様のご家庭に例えますと「収益的収入」が給料、「収益的支出」というのが生活費、このような関係にあるというようにお考えいただきたいと思っております。まず皆様の給料というのが、我々水道事業でいきますと水道料金収入、それから支出でいきますと皆様の生活費に当たる部分が水を製造する費用でありますとか、それから維持管理費用、更には支払利息や減価償却費。特に浄水場・配水場などのような大きな装置と申しますのは、永遠にそれらが使えるというわけではございませんので、耐用年数の期間中において、見かけ上支払われるお金がこの減価償却費ということで支出の中に組み込まれております。

続いて資本的収支ですが、皆様のご家庭でいきますと、「資本的収入」が住宅建設ローンの借り入れと、「資本的支出」がその返済というような関係だと考えていただきたいと思っております。

まず収入につきましては、国の方からの補助金。いま進めております広域化促進事業であれば全体事業費の 3 分の 1 は国の方から補助金として支出してくれるということになっております。その他全てを賄えませんので、企業債ということで、これは借金になりますが、我々水道事業者がお金を借りてくることとなります。それからも

う一つは補填財源。これは後ほどご説明しますけれども、先ほど見ていただいた減価償却費などをもってこれを補填財源として充てることとしております。

それから支出の方になりますが、こちらはお金を借りた元金、これは利息を含まない元金部分を償還する場面とそれからもう一つは施設を建設する費用、又は資産的価値を高める費用、そういったような費用として支出されるものであります。

今ご説明してきたように、我々水道事業を営むときには、収益的収支と資本的収支という二つの財布がありまして、一つは水道料金収入と水を製造するための支出を行う財布、いま一つが資産的価値を高める、又は新たな資産を創出するという目的の財布を持っております。

この収益的収支の中の減価償却費については、見かけ上支払われる額ですので、実際にお金は動かず基本的にはそれを積み立てておいて、後々の更新費用として充てるというような考え方が基本なのですが、いまの石狩市水道事業と申しますのは、正に新しい施設を作って、そして老朽管を更新するというように多額のお金を必要とする時期に入っていることから、この減価償却費相当額を資本的収支の補填財源に充てています。いわゆるここが収益的収支と資本的収支のパイプ役となる部分になって全体のお金のバランスをとっているというような構図になっております。

ここまではいかがでしょうか。不明な点などはありませんでしょうか。

同じ説明をもう一回後程、蛭谷がしますけれども、全体の水道事業の流れと会計の流れの概要をここまでご説明させていただきました。このことを皆さんの頭の片隅に置いていただいた上で、先ほど見ていただいた経常収支の総括表の考え方なのですが、基本的には前回ご議論いただきました中期経営計画、この考え方と基本的には変わっておりません。ただ一つだけ変わった部分がございます。それは何処かと言いますと料金収入の部分です。どうして変わっているかと言いますと、前回の中期経営計画というのは財政計画ですので、財政計画的な視点からいわゆる悲観的な見通しを持って料金収入を見込みました。しかしながら今回ご審議いただく統合認可と言いますのは、施設規模を決めるという性格を有する上位計画でもございますので、都市政策的な視点で人口推計なり給水量推計をしております。自ずと都市の発展を拘束することがないように、希望観測的な見通しも取り込みつつ施設規模を決めなければいけませんし、料金収入も必然的にそれと整合を取らなければなりません。よって中期経営計画とこの認可とが決定的に違うのは料金収入です。前回の中期経営計画は悲観的な見通しで収入を見込んでおりますけれども、ここでは希望的な観測をもって見通しをもっているということですから、料金収入については少し大きな額になってございます。その他の考え方については前回の中期経営計画と基本的に変わっておりません。ただ前回の中期経営計画は24年度までの審議でございましたので、今回は25年度以降も予測しております。25年度以降については皆様もご存知のとおり石狩市は水源を切り替える時期になりまして、石狩西部広域水道企業団から用水供給を受けます。現時点では1トンあたりの単価が約94円。これは平成13年度に道が「石狩西部地域広域的水道整備計画」において示した用水原価となっております。ただその当時から比較しますと現在、石狩西部広域水道企業団の水量というのは石狩市も水量を落としておりますし、他の構成団体も水量を落としておりますことから、当然スケールメリットは逆に働いてしまい、1トンあたりの単価、価値というものが上昇することが予想されております。なお前回中期経営計画でもご説明いたしましたけれども、この1トンあたり約94円という金額がどれくらいになるかということにつきましては、いま正に石狩西部広域水道企業団並びに各構成団体の中で鋭意議論が進められておまして、現時点では皆様にまだご説明ができる段階にはないという状況にあります。なお道庁に届出するこの統合認可につきましては、基本的に世の中に出ている単価、公表されている単価を以って説明しなければいけませんので、唯一石狩西部広域水道企業団の用水原価を世に出している先の道の計画におけるこの94円を以って、形づくらざるを得ないという情勢にもあります。

以上、経常収支の総括表に関する基本的な考え方をご説明いたしましたけれども、

このような考えに基づいて先ほど表 - 1 をご覧いただいたような数字の羅列になっておりますので、これからその数字の羅列を少しでもわかりやすくグラフ化して皆様にご説明したいと思っております。

ここからの場面につきましては、上水道事業と簡易水道事業が統合してもきちんとか何かの措置を施せば財政バランスが取れるということをチェックする場面になります。まずは収益的収支の見通しからご覧いただきたいと思っております。これは先ほどご説明を致しましたように皆様のご家庭に例えますと、給料と生活費の収支関係という場面になります。このグラフの見方から簡単にご説明致しますと、ゼロを基軸として、上下に出ている棒グラフがございます。これは下に出ると赤字、上に上ると黒字になるというような構図になっております。次に上の青い折れ線グラフですが、これは市の水道事業が蓄えている利益積立金、この青の利益積立金を何故我々が貯金をしているのかといいますと、一つはこのような赤字・黒字が繰り替えされますので、この穴埋め費用として使うという目的の一つ。それからもう一つは災害などによりまして突発的な事故が起きたとき、それを急遽修繕するというような費用として貯金をしている金額であります。まずはこの上下に出ている棒グラフから見ていただきたいと思っておりますが、前回中期経営計画でもご説明したとおり、今回の希望的な観測を持った収入で見ても今後については赤字傾向となって参ります。そこで我々水道事業者としましては、安定的な水道事業経営を営むために、中期経営計画と同じタイミングになります平成24年度に料金改定を実施しなければならないと見通しております。その後につきましては少しプラス傾向になって参りますけれども、平成32年に大きな赤字となって、33年に逆に大きく黒字になることがシミュレーションされております。どうしてこういうことが生じているのかといいますと、平成25年から石狩西部広域水道企業団より水の用水供給を受けますので、現在ある浄水場施設は25年度以降計画不要になります。当然その施設を持っていても事業経営上は好ましくありませんので、取り壊しをして底地である土地を売却することで収益を上げるという計画で考えております。この計画上では平成28年度からの5年間で浄水場施設を取り壊して、その次年度に土地を売却するという事を考えております。ただ平成32年につきましては、現在ある浄水場施設の中で最も大きい施設である花川南浄水場を取り壊すということを考えておりますことから、大きな赤字額となって次の年にその土地を売却するという計画でありますので、大きく黒字となっております。この後につきましては、安定した黒字傾向が概ね10年くらいは続くものと見通されております。

この平成32年に話を戻しますけれども、32年には大きな赤字が出ますが、これにつきましてはこの場面で水道料金改定をやるのかということでございますが、これはそういうことは致しませんで、過去に積み立てている利益積立金をもって補填するという事を考えております。ですからこの統合認可上では、平成24年の料金値上げをもってこの場面では、その料金値上げをしなくてもいいというような計画・見直しになっております。ただここで利益積立金が現時点で約4億円くらいありますが、この時点では計画上、約2億円くらいまで使い込んでしまうということになっております。この2億円といいますのは前回の中期経営計画でもご説明したとおり、過去の突発的な事故が起きたときに要した費用を勘案いたしますと、我々としては最低限2億円は利益積立金として手元に持っていなければならないと認識している下限額でございますので、この32年の大きな赤字の場面でも約2億円の貯金はなんとか死守できるというようなことにより、この収益的収支は簡易水道事業と統合しても、持続的な経営が出来るというように見通したところであります。

続いて資本的収支についてでございます。資本的収支は先ほど冒頭でご説明をしたとおり、皆様のご家庭の生活でいきますと、家の建設ローンの収入と建設ローンの支払いというような関係になっております。水道事業でいけば補助金と企業債、それから補填財源という収入と、施設を新たに作るためなどの費用としての支出の財布になります。このグラフの見方なのですが、この棒グラフが赤字額になります。このままですと収支バランスが取れていないので、これにつきましては、基本的に先ほどもご

説明をしましたように、今の石狩市水道事業といいますのは、平成25年度からの石狩西部広域水道企業団からの用水供給を受けるための新たな施設の創設でありますとか、配水管の老朽化に伴います老朽化施設の更新というようなことで、多額な資金が必要となる時期でございますので、この資本的収支バランスも今のところは大きく赤字になってきているということになっております。この赤字を補填する財源として三つございます。ここにありますように折れ線グラフがそれなのですが、建設改良積立金・減債積立金・減価償却費等補填財源というような積立金等があり、これら三つの積立金等を足したものが後ろ側に見えます面グラフになっております。これをより簡単にするために先ほどの折れ線グラフを除きまして、資本的収支の赤字と補填財源の原資となります後ろの面グラフのみを見ることに致します。面グラフは先程もご説明したとおり、今後計画的な更新事業を行うための財源として貯金をしてきている額になります。現時点では約8億円弱のお金が貯蓄されているということになっております。この貯蓄によって資本的収支の赤字の補填をしていくということになっております。つまり棒グラフの赤字額と面グラフとの間の差額分であるこの矢印部分、約4億円程度、これが毎年度の見かけ上の貯蓄額ということになっておりまして、この貯蓄額を原資として計画的な更新事業を毎年行ってきております。

現時点では約4億円程度のお金が貯まっているのですが、これについてもシミュレーション上、小さくなったり大きくなったりというような繰り返しの中でお金が蓄えられ、計画的な更新に備えていくということとしております。

なお今後につきましては、本シミュレーション上、収益的収支の黒字額を多く貯蓄するとの考え方から、平成40年ぐらいから貯蓄額が大きくなっていきます。ピーク時には約7億円ぐらい貯蓄されることが予測されておりますが、これにつきましては現在進めている広域化促進事業が平成10年度から整備をしておりますので、配水管であれば耐用年数が約40年ですから、平成50年ぐらいから現在進めている広域化施設を更新していかなばなりません。更には老朽管更新事業につきましても、平成8年度から進めておりますので、48年度あたりから2サイクル目の更新を始めなければならないというダブルパンチの更新が控えております。これらに備えて、この部分の貯蓄を計画的な更新事業として使っていくというようなことを考えております。

いずれに致しましても、先ほどの収益的収支と同様、資本的収支についても簡易水道事業と統合した場合も健全経営ができるような財源体系とすることが可能ということを確認されたところでです。

私の方からの説明は以上です。

余湖会長

はい、どうもありがとうございました。

皆様のお手元には、先週ぐらいでしょうか、膨大な資料が送られて多分驚かれたと思うんですが、要するにこの膨大な資料の大部分は今清野さんが最後に説明された2枚のグラフにつきるということです。

ただちょっと頭を切り替えていただきたいのは、以前議論した中期経営計画というのは、経営上のある意味では悲観的な見方で予測したものでしたが、今回はそうじゃなくて、楽観的というか、用水供給単価も94円ということなので、あまり現実的ではないと言えるかもしれませんが、むしろ前回の議論のほうが現実的な数字ということになります。

ただ一つ、最後のスライドですね、今までは収益的収支の積立金が2億円を確保するというお話は随分出てきたんですが、これは家計でいうと普通預金みたいなもので、2億円は常に置いておこうと。最後の4条の資本的収支の積立金っていうのは定期預金か定額預金かわかりませんが、そういうような性格のものもあるんですよ。それは主に将来の設備更新、そういうものに対する積立金であると、こういうご説明がありました。

4条の積立金については今まであまり説明がなかったと思うので、今回こういう形で説明されたのは初めてだと思います。

ということで、この統合事体は政治的にと言いますか、方向としては既に決まって

いることで、手続き上の問題で一応役所の中で統合するというのも大変は手続きがいるんだなということをお聞きいただきありがとうございます、中身について何かご質問ございますか。

この委員会では、これを審議していただいて、これでいいかということの届出書の
中身についてですね、妥当であるか否かという判断を今日いただきたいというふうには思っております。

余談ですがこれは北海道では最初の例になるんですか。

清野主査
余湖会長

北海道に権限が移って最初の例になるということで聞いております。

石狩に習って出てくるということですね。

こういうことをやんなくちゃいけない事業体はたくさんありますよね。

清野主査

はい、あると思います。今回の届け出というのはかなり簡便な方法をご用意
いただいて、前回5月18日の審議でもご説明したとおり、それぞれの認可値を単純に
合算するという形で届け出をするという、非常に簡便な方法を作っていましたから、
今後はこういった手続きが道内においても必然的に続いていくものと思われ
ます。

余湖会長

これで簡便だそうですね。

特にご意見ございませんか。はい、わかりました。前回もお話したように合併協議
において統合は確認されていますので、今前提条件を事務局のほうからご説明いた
だきましたので、これでご了解いただいたということにさせていただきますが、それ
では委員会としては答申書を作らないといけないので...

小笠原委員

一つ簡単な質問なんですが、条例案はいつの議会に提案するんですか。

清野主査

今の予定では12月議会を、と考えております。

小笠原委員

はい、わかりました。

余湖会長

それで、4月1日から施行ということですね。

清野主査

はい。

余湖会長

よろしいですか。

それでは、答申案の文章を配っていただけますか。

今までは、色々書きましたけども今回は非常にシンプルで、これだけでございます。

「平成21年9月4日、石狩市長田岡克介様、石狩市水道事業運営委員会会長余湖
典昭」ということで、「石狩市水道事業変更届出書(合併に伴う水道の事業統合認可)
について(答申)」、「平成21年5月18日付け石業務第78号にて諮問のあった下
記案件について慎重審議の結果、妥当であると判断する」、「記」として「石狩市水道
事業変更届出書について」ということです。

特に意見というものは付けておりません。よろしいでしょうか。それではご了解
いただいたことにさせていただきます。これは一応答申しなくてはいけないんですが、
副市長の予定がちょっと決まってまして、3時過ぎというふうに伺っていますので、
来られた時点でこれをお渡しすることにして、審議のほうは先に進めさせていただ
きたいと思っております。どうもありがとうございました。

それでは今日の審議事項は以上ですが、次に報告案件について、最初に一番として
簡易水道地区における委託について、来年から簡易水道を委託するという方向で事務
局のほうで準備を進めておりますので、その経過報告等をお願いしたいと思います。

東主査

業務課の東と申します。私のほうでご説明させていただきます。座って説明いた
します。

事前にお配りしております資料と同じものを今画面に映しますので、画面のほうを
ご覧いただきながらお聞きいただければと思います。簡易水道地区における委託とい
うことでございまして、大きく三つの区分に分けて今日はご説明をしたいと思います。
まず一つめが、昨年度実施いたしました市場調査の関係についてご報告ということと、
二番目がそれを受けまして現在の市の検討状況、そして三番目に今後の事務局側のス
ケジュールということでご説明をさせていただきます。

まず一点目の昨年度実施の市場調査についてでございますが、まず簡易水道の地区
ですけれども、こちらの地区はわずかな職員で直営で維持管理をしているという現状

がございまして、上水道事業の第三者委託の審議の際にも、当委員会においては簡易水道地区についても委託業務を導入し、出来れば第三者委託を導入したほうがいいのではないかと、というご意見もいただいております。それを踏まえまして検討しておりますが、市が第三者委託を実施したいと言いましても、受けてくれる事業者が無ければ出来ないこととなりますので、実際どうなのかということで昨年の10月に調査を実施したところです。

ご覧いただきますとおり、平成20年の10月、こちらでまず対象の事業者20社を選定いたしまして、そちらの事業者に対しまして第三者委託にかかる説明会、見学会を実施いたしますということでご案内をいたしました。これに基づきまして翌11月ですけれども、15社の事業者の説明会にご参加をいただきまして、その後の見学会につきましては、その15社中13社の事業者に見学会に参加いただいたということになりました。その後事業者からの質疑、それと私どもからの応答ということで、これはホームページを活用いたしまして、質疑・応答を実施しております。参考までに質疑数は48ほど事業者からいただいたというような状況でございました。この説明会を受けまして、実際に企画・提案書類を出していただいた事業者が7社ということで、12月にその提案書類をお受けしているということでございます。

以上が市場調査の大まかな流れということでございます。

続きまして、その市場調査における結果ということでお示しをしておりますけれども、まず私ども事務局のほうで、事業者に対しまして委託する項目を大きく三つに分けて出しております。

まず一つ目が浄水場等の運転管理業務ということで、これについては参加の意思表示をした7社すべてから見積書などの資料を提出いただいております。その中で金額のほうもお出しいただいているんですが、「期待できる効果額」というふうに記述しておりますけれども、180万円ということになっております。こちらの効果額につきましては、平成18年度に浄水場等の運転管理業務の部分について、市が支出しました決算額をもとにしまして比較をしております。その結果として効果額として期待できるものが180万円、というふうになっております。

見積りと併せまして事業者からの提案事項ということで、従事者数については、それぞれ7社まちまちでございますけれども、一番少ない人数では3名でやれますというところもございましたし、11人体制であたるということで提案いただいた事業者もございました。二つ目といたしましては、水質機器の増設が必要ではないかというご提案もいただいておりますし、併せてリモートシステム、遠隔監視についても、本庁から大分距離もありますし、それぞれの施設が遠くにありますので、そういった遠隔監視についても導入してはいかがか、というようなご提案をいただきました。

続きまして二点目に市が求めましたものが、送配水管の維持管理業務ということでございまして、こちらについては見積り等の書類提出業者数が同じく7社全ての事業者からいただいております。これにつきましても同様に平成18年度の本市の決算額を比較価格といたしまして、期待できる効果額としては120万円ということで出ております。こちらの業務に関する提案事項といたしましては、緊急時の対応体制といったことで事業者からご提案をいただいております。

続きまして三つ目なんですけれども、水道料金の賦課徴収業務ということで、こちらにつきましては、参加いただいた7社中5社の事業者から提案等をいただいております。こちらのほうで期待できる効果額が、同じく平成18年度の決算額比較ですが200万円ということでお示ししております。ただ一点付け加えさせていただきますと、こちらの18年度の決算額なんですけど、これは人件費につきましてはそれぞれ今申し上げた三つの業務の業務割合で単純に割り返して出しております。実際にその水道料金の賦課徴収業務の中には、細かな滞納整理の事務があり、それらが実際に反映されて見積もりが出ていたとは限らないものですから、実際に200万の効果が出るかというのはちょっと難しいのではないかと事務局としては考えております。

次に大きな部分の二番目、今の調査結果を踏まえて、市はどのように考えているの

かということでございます。この図は以前の委員会の中でもお示したことがあるかと思えますけれども、市が目指す簡水地区の委託の形としましては、赤い線、ちょっと見づらいかもしれませんが、赤い破線で囲んでいる部分につきましては、第三者委託を導入して維持管理を行いたいと考えております。具体的に言いますと、取水施設から浄水施設、そして配水場を含めたこの施設については第三者委託で運営をしたいというふうに考えております。緑の破線で括れている部分、つまり配水管網ですとか、そういったものについては第三者委託ではなく、包括委託ということで市は今検討しているというところでございます。

今のこの図面の部分を文字で表したものが次の表になりますけれども、一番上の浄水場等の運転管理業務、これにつきましては、まず優先順位としては第三者委託の導入を考えております。ただ第三者委託も今後見積りを取って、そのコスト的な部分も見なければなりませんので、第三者委託のみにこだわらず、通常委託という部分も頭に入れながら検討していきたいというふうに思っております。検討の理由としましては、先ほども申しましたとおり技術職員の確保が上水道も同じですけれども、簡易水道についてはより技術者の確保が難しいという部分もございまして、そういった技術レベルの維持・継続ですとか、あるいは技術レベルの向上というようなところを期待して、第三者委託を検討しているというところでございます。

次に水道管維持管理業務ということで、送配水管の維持管理ですが、こちらについては今のところは第三者委託ということでは考えておりません。先ほど緑色の枠で囲った部分でございまして、通常委託をまず年頭に考えております。ただ浄水場等の本体の部分の委託が第三者委託ということに決まりましたら、その部分の包括といったことで一体として進めてまいりたいというふうに考えております。検討理由といたしましては、今支所には2名ずつの職員を配置しておりますけれども、今後支所の職員数もおそらくは減少傾向になっていくのではないかとということから、常に配置することが難しいということが予想されますので、そういった部分で検討しています。もう一つ、何故第三者委託でないのかという部分なんですけれども、配水管網の第三者委託について、この当時の市場調査においてはあまり委託実績がない、事業者がそんなに多くはないということで、まずは通常の委託ということで市は今検討しているところです。

続きまして、水道料金の賦課徴収業務ということで一番下段に書いておりますけれども、現在簡易水道地区につきましては、検針ですとか料金との関係につきましては、私人委託をしております。市が個人と直接契約行為を行いまして、毎月の検針業務ですとかそういった部分を行っております。ただ、私人委託ということになりますと、何か事故などがあつた場合に、個人に責任を負わせるというような部分も中々難しいといえますが、ふさわしくないということで判断をいたしまして、そういった私人委託のリスク回避という観点から、今後は法人委託に切り替えていくということで、市は基本的な方針を出しております。

続きまして今の検討状況を踏まえまして、今後はどういった流れで進めていくのかというスケジュールをお示ししております。表が大変大きくなるものですから、まず8月から11月ということで区切りまして、ご説明をさせていただきます。

まず三段に分かれておりまして、一番上段が導入にかかる準備のスケジュール。二段目が契約事務にかかるスケジュール。三段目が運営委員会に関するスケジュールということになっております。

一番上段ですけれども、導入準備ということで、まず8月につきましては要求水準書、仕様書の作成ということになっております。実際にどうなのかということなんですけれども、概ね水準書、仕様書については作成が終わっておりまして、最後の調整を事務局内部で行うという段階になっております。ですから今月中に説明会や見学会の開催のご案内をさせていただいて、これらを実施した後に参考見積りのほうを徴収したいと考えております。実際にもう9月の上旬でございまして、参考見積りの徴収につきましても、若干ずれ込んで10月に入ることも想定されますけれども、でき

るだけ早い段階で見積りを徴収いたしまして、それをもとにしましてコスト面ですとか、内容等を精査させていただいて、10月には第三者委託を選択するか否かということで最終的な委託方針の決定をしたいと事務局としては考えております。参考見積りにつきましては予算編成の関係もありますので、あまり遅らせることは出来ませんので、今言ったようなスケジュールの中で進めていきたいというふうに考えております。

見積書の徴収の結果、仮に市が第三者委託を選択するという事になった場合につきましては、二段目の契約事務のところですけども、予算編成事務と並行致しまして11月には募集広告に関わる諸準備、書類の整理などをしたいというふうに考えております。

下段の運営委員会のスケジュールにつきましては、まず9月の下旬、今回第4回委員会ということで、今市場調査の結果等をご説明をさせていただいております。そして次回第5回につきましては、あくまでも予定ですけども11月の下旬を開催の目処といたしまして、その時点ではもう見積りの徴収、委託方針の決定ということも終わっていると考えておりますので、その際に委託方針についてのご報告、そしてその際に前回の水道事業の第三者委託の際にもお願いいたしましたけれども、選定委員会を設置しなければなりませんので、そういった選定委員の依頼などもその委員会の中でさせていただければというふうに考えております。

次が12月から4月まで続くスケジュールということになっております。導入準備につきましては、しばらく動きがないということがございますのでまず置いておきまして、二段目の契約事務でございますけれども、12月の下旬には第1回目の選定委員会を開催したいというふうに考えております。これに合わせまして契約上必要となります債務負担行為のために、予算の補正を第4回12月議会の中で実施したいというふうに考えております。年末年始を挟みまして、契約事務としましては募集の広告を出させていただきまして、それに伴って説明会、見学会の実施、その説明会にかかる質疑応答、これを順次行いまして、その後1月の下旬から2月の中旬にかけて事業者からの参加表明書の受付を行いたいと思っております。その後2月の中旬にそれに伴います企画提案書等の提出をいただきまして、それをもとに2月の下旬には第2回目の選定委員会、この中で受託していただく事業者の決定をしたいというふうに考えております。これが決定されましたら実際に3月には受託事業者と当方の技術サイドとの業務打ち合わせ等を行いまして、4月には契約をして業務に当たっていただくということで考えております。

なお運営委員会につきましては、あくまでも予定ですけども、年が明けましたら22年第1回委員会ということで、この委託に関わる契約手続きの進捗状況などについてご報告ができればと考えております。

なお補足ですけども、今契約事務等でご説明した部分はあくまでも第三者委託を選択した場合ということでございますので、もしコスト面等で通常の委託を選択するような場合であればスケジュールが若干変わって参りますので、その点についてご理解をいただければというふうに思っております。

非常につたない説明で申し訳ございませんでした。私からの説明は以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

余湖会長

はい、ありがとうございました。

簡易水道の委託業務の進捗状況、あるいは今後の予定についてお話がありました。全体を通してご質問、ご意見等ございますか。

小笠原委員

ちょっといいですか。

余湖会長

はい。

小笠原委員

最初のほうのパワーポイントなんですが、市場調査の結果の中で説明のありました提案事項の中で、従業者数3から11名というのは、各企業によって違うのですが、これは市とは関係ない部分ですよ。

東主査

はい、そうです。

小笠原委員 次ののほうの「水質機器の増設、リモートシステム導入等」というのは、これは市がやらなければいけない部分ですよ。

東主査 はい。

小笠原委員 例えば今これから色々通常の委託がいいのか、第三者委託がいいのか検討していくんですが、この水質機器等の整備について市のほうとしては整備できるんですか。それが前提として相手が応募してきてるはずなんですが。

下野課長 初年度は無理かと思います。予算付けもございまして、とりあえず昨年度の実績を基に予算付けをして、その後提案を受けて契約なものですから、その提案は次の年度、補正してまでやるかという話なんですけども、一年くらいは様子を見て提案を受けて、うちのほうがやる部分については、即出来るというのではなくて、検討をして可能であればやりたいと思います。

小笠原委員 そういうことであれば、相手が参加しない可能性も大になってきますよね。各社が皆この注文をつけてるかどうかわかりませんがね。

下野課長 はい。中にはですね、受託者がつけるという提案もあるんですよ。水質機器なんかについては。

余湖会長 そうすると がリンクしている可能性がある。

下野課長 そうです。そういったものをつけることによって、人を減らすという提案ですね。

余湖会長 ああ、なるほど。

小笠原委員 水質機器のほうは、簡水の場合それほど高額にはならないと思うんですが、リモートシステムをやるということになると、ちょっと半端じゃないお金がかかりますよね。

下野課長 相当な費用がかかります。

小笠原委員 どの程度のものを持ってくるかわかりませんが、そうだとすれば、かなりこれから検討するにもその前提をどうするのかで、かなりきつい議論になるんじゃないのかな。

市がどこまで要望に応えるのか、応えなければ貴方は必要ありませんと言うのか。その選択が出てきそうな気がするのですが。

下野課長 はい。あくまでそれは受託者の提案といいますが、評価をする上でそれが評価に値するかどうかということなんですけれども、受託者が自分の費用でやると言うのであれば、かなりのウエイト、提案としてはプラス側に働くと思うんですけれども、単なる提案であればそれがその評価をするときにどういう評価するかという、勝手に市が持ってくださいという提案であれば誰でも出来るような提案かなと。

小笠原委員 どちらがお金を出すか、受託費の関係もあるんですかね。そうですか。

下野課長 たまたま昨年もらった時点ではそういった提案がありましたよということで、今回新たに要求水準書なり、仕様書を作りますので、それをもって…。

余湖会長 参考見積りの段階では、その辺がはっきりすると。

下野課長 そういことです。

余湖会長 ちなみに現在石狩市の従業者数というのは何名と考えればいいんですか。

下野課長 現在各支所に2名ずつの体制で合計4人います。

余湖会長 あとのほうの、水道管のほうに2名という話があとに出てきましたよね。それと浄水場のほうに2名ということですか。そういうふうに考えればいいですか、合わせて4名。の検討状況ってありますよね。配られたプリントだと10枚目のシートかな。その説明のときに、真中の水道管維持管理業務というのは、今技術職員を2名配置しているという説明があったんですけど、浄水場の運転管理業務は現況だと何名になるんですか。

東主査 すみません、私のほうの説明がちょっと不足しておりまして、浄水場ですとか配水管等の全てを計4名で、各支所2名ずつということで行っております。申し訳ありません、訂正いたします。

余湖会長 ああ、そういう意味ですか、はい。

下野課長 11名ってすごい数ですね。それで安くなるというのは、よくわからないんだけど。

下野課長 はい、実はですね、やっぱり11人も使うとなれば、うちの予定価格よりもかなり大幅に高いです。

余湖会長 そうすると期待できる効果額っていうのは...。
 下野課長 一番安いものです。
 余湖会長 一番安いところですか。
 下野課長 業者さんの効果額。
 余湖会長 そう言っていただくとよかったのに。
 下野課長 申し訳ありません。
 余湖会長 だから正直言って、東さんの説明にもあったけど、経費的な問題があって第三者委託はひょっとすると難しいかもしれない、という含みがあるということですね、その辺は。

下野課長 はい。7社のうち2社程度がうちの予定額よりも少なかったと。少ないところがあったということで、他はうちの実績値よりも高い値段で見積りを挙げてきている、というのが実態です。

余湖会長 はい、ありがとうございました。他にいかがでしょう。
 中村委員 ちょっとお伺いしていいですか。
 先ほどの画面、一番下のほうに料金の徴収業務ですか、あれは市からの私人委託でありましたけども、未だにまだ個別訪問で料金を徴収するというようなところが沢山あるわけですか。ほとんど今口座引き落としで取られてると思うんですけども、まだ直接家に訪問して「水道料金おいくらですよ。お支払い下さい。」というようなところが、まだ沢山あるわけですか。

門馬主査 実際ですね、浜益地区だけなんですけれども集金業務を実施しておりまして、これはどういうものかといいますと、だいたい浜益は、数にして2,000くらいの給水戸数があるわけですが、そのうち口座振替の方もかなりいらっしゃるんですけども、実際毎月口座振替にしていない方が350世帯くらいありまして、その方については基本的に家を訪問して集金をしているという実態がありまして、これを今個人の方に委託して集金をしてるという状況ではあります。
 今後こういったものを、どのように委託していくかということが、一つの今回の法人委託にする中でも、大きな要素となってくるものではあります。

佐藤委員 すいません、技術職員の方についてお聞きしたいんですけど、先ほども11名は多いよというお話をされてたと思うんですけど、私自身の印象からすると24時間張り付いて何かをしているというわけではないにしても、たった4人で今まで回してきたほうがどうやってやってきたんだろうというぐらい、正直なところ、何日休みを取れてたとか事故があったらということ考えるとすごいことなので、福利厚生も含めて、ちゃんとしたスケジュールでいけるのであれば11名であろうとなかろうと、その手厚い体制でやっていただく分には、しっかりとした安全管理も含めてやっていただけるならいいというふうに個人的には思うんですけど、質問は今2、2で4名の技術職員の方が張り付いておられますけれども、もし委託をかけた場合、その方々はまた本庁というか、全体の管理という形で技術職員の方々は市としてキープされていくのかなとは思いますが、モニタリングも含めてかかるのはどれぐらいの人達であって、それ以外の方々の業務というのは、その後もし委託をする場合にはどういう形になるのかというイメージを教えていただきたいです。

下野課長 まだ第三者委託は決まったわけではないんですけども、第三者委託になった場合、一応今考えているのが技術職員1名ずつ、他の業務と兼務をしながら0.5人工ずつという形で、通常毎日水は送ってはいるんですけども、やはり一年間を通して業務が色々ありますので、一年間は配置しようと考えています。その後の監視については、今上水道で2名、上水道側の委託について監視をしているんですけども、その2名で簡易水道地域の委託も見ようと考えています。ですから2年後には2名体制、上水道の2名体制でやろうとしております。
 それと前段言われておりましたその4人以外に、土曜・日曜というのは今通常の委託で浜益も厚田についても巡回をさせております。ですから今いる職員が土日毎日働いてるわけではなくて、そういった委託はしております。以上です。

佐藤委員 では、その効果額のところなんですけれども、それはその土日の委託分と、あとは現況の技術職員の方々の減る分も含めた上での効果額、削減額というイメージでこの数字を見てもいいんですか。

下野課長 この効果額については決算額ですので、委託も入っていますし、職員も浄水場と送配水管と水道料金とその人数を振り分けしまして、それとの比較でございます。

佐藤委員 最後に、その技術レベルの維持継続というのは、市側のほうは技術職員がそこまで減ったとしても大丈夫な感じなんですか。

下野課長 市側の技術レベルですけれども、市側の残った人間に関しては毎年のように研修もさせておりますし、技術は継承していこうと思っておりますけれども、なにぶんやはり今人件費が一番高いものですから、事務側に回されたり、来年からは職員が何名かは採用されるみたいなんですけれども、大量に退職時期を迎えているところで、減ったところに技術職員を回すとかというような状況になってますけれども、残った人間でやるしかないというふうに考えていますので。あと委託をすれば第三者の技術力も貰えるわけですから、むしろそこにうちの職員を何日が配置させたりして技術を磨いていく方法等を考えております。

佐藤委員 ありがとうございます。

余湖会長 今回の委託後の技術職員の配置の確認なんですけども、今厚田・浜益に計4名ですよね。そして委託したときには厚田・浜益にいる人、技術職員は何名になるのですか。ちょっとよくわからなかったです。

下野課長 1名ずつ置きます。

余湖会長 1名ずつ残すのですね。

下野課長 計2名ですね。

余湖会長 計2名。

下野課長 実は、今4名いる職員なんですけども、実際は現在も土木のほうの維持管理も兼務しております。

余湖会長 道路などの業務ですか。

下野課長 道路の維持管理ですね。ですから、道路のほうの維持管理と第三者委託の監視と、そういった二つの仕事を兼務してもらって第三者委託を監視してもらおうと。ですから実質賃金で言えば0.5人という、0.5人の厚田・浜益両方合わせて1人分は水道で持たなければいけない賃金になります。

余湖会長 それは第三者委託の場合。

下野課長 はいそうです。

余湖会長 業務委託になったとしたらどうなりますか。

下野課長 業務委託ですと、やはり責任を持つことになりますので、職員を継続して配置、両支所にやはり1名は最低置かなければいけないと思っております。

余湖会長 そうすると、ちょっと先走った話になるけど、第三者委託でも業務委託でも2名。

下野課長 はい、1年目はですね。第三者委託の場合は、まずは第三者委託にした場合は、1年目に限って0.5人×2支所ですね。人間としては2人になりますけども。

余湖会長 ああ、そういうことですね。他の業務と兼務でということですね。

下野課長 はい。2年目以降は支所には人を配置しません。通常の委託でありますと、1名×2支所がずっと続くといったことで考えております。

神田委員 今説明聞いてわかるんですけども、ただ、1名置きますよということなんですけれども、現実に支所の勤務状態を見ますと建設係として2名か3名しかいないんです。そしたら支所から本庁のほうへ出張しているってことで、何かあったときでも半日、少なくとも半日はその人とコンタクトできない状態が今でも続いています。

余湖会長 そういうことで水道もそのとおり、ただ数の上では0.5人配置しますよということなんですけども、その人が0.5でも1日中そういうことに対応できればいいんですけれども、別な0.5の用務で区内から出ているということになれば、話が通じなくなるんですよ。そういう関係は十分に、これ水の関係ですから、十分に横の連絡が出来

るような、そういう体制は取っておいてほしいと思うんですけども。

下野課長

連絡体制は、本所のほうに職員がいますので、本所と電話でのやり取りになるかと思えますけど、そういった対応をしたいと思っております。

神田委員

もう一点。先日もですね、私自治会長もやっているんですが、2箇所道路から水が出てるといふことで、それで連絡してくれといふことで連絡を受けたので支所の方へ連絡しましたら、2人とも今出てるといふことでした。午前中8時か9時頃でしたけれども、2人とも連絡がつかないといふことで、1人は本庁へ行ってる、1人は区内から別な用件で出てるといふことで、水道の係でなく今度は建設的な仕事のほうで、一人何役もやっていますから。それでもすぐ午後から来てくれましたけれどもね。

そういう面が多々あるんですよ。ですから、そういう関係では第三者委託でも民間委託でも結構ですけども、そういうことで0.5の人が適宜に対応できるような体制だけは一つ考えてほしいと思うんですけども。

下野課長

はい、わかりました。

余湖会長

はい、ありがとうございます。今のは非常に重要なご指摘だと思うので、今でも結構浜益のほうで事故があつて、こちらから飛んで行ってるというような話も聞いてますので、やはりいずれの形にしる、委託を出す場合に何かそういう事故が起こった場合どう対応するのかとか、そういうことを十分に地元の方に説明できるような体制を整えた上で提案しないとないと思います。具体的な動きが決まった段階で、是非事務局にお願いしたいと思えます。

どうも神田さん、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

眞柄委員

10番の図の検討状況で、浄水場は第三者委託、法定ですよ。水道管維持管理業務が通常委託になっています。ただ、浄水場が第三者委託の場合は包括委託にするっていうことは、浄水場の管理業務を受けた人が維持管理業務も委託を受けるっていう、そういう意味ですか、これは。そういう意味ですね。

東主査

はい。

眞柄委員

そういう意味だったら、なぜ通常委託が赤印になっているのか。優先順位をそう考へてるからってことですか。

東主査

表現上ご指摘のとおりです。

下野課長

そうですね。

東主査

上下逆転しています。申し訳ありません。

余湖会長

さっき東さんが言われてたんですけど、水道管の維持管理業務はなかなか手を上げてくれる人がいそうもないという、ニュアンスが働いてるんですよ。

蛭谷主査

第三者委託を管の管理に導入するのは難しいだろうという前提があるものですから、表現上そのペイントの仕方となっております、実質中身が何かと問われれば通常の委託ですという意味合いで、そのような表現をさせていただいたということです。

眞柄委員

平成24年か25年から西部の水を使うようになるわけですよ。そうすると今の石狩市、簡水じゃないところの水道の業務は、実質的には配水場と送配水管の管理が市の水道の仕事になるわけですよ。そうだとすれば、将来的にそこも民間に委託するということだとすれば、今のうちから浜益・厚田の簡水のほうから練習するといふ言い方は変かもしれないけども、そういうふうにしていったほうが良いのではないのでしょうか。先ほどのお話のように、やはり今の浄水場の管理よりも管路の管理のほうが大変だから、そっちのほうを受けてくれるようにインセンティブを与えたほうがいいんじゃないかなっていうのが、私の印象です。逆に旧市街のほうも、管路ももう任せてもいいんじゃないのかという、私はそういう印象です。

それから、上のほうの浄水場の運転管理業務も、水質機器の増設だとかリモートシステムの導入だとか、これも要するに市が費用負担するんじゃないかと、民間業者が持ってきてそのリース料などもこの管理費、委託費の中に込みでやるというような条件にしたほうが、要するに民間の人がやりやすいような条件を作ってあげたほうが、受けるほうも受けやすいんじゃないかと思えます。ですから送配水管の維持管理も業

者が少ないとはいいつつも、僕はあるんじゃないかと思います。まあ印象です。実際はどうか分かりません。だから出来るだけ広い範囲で民間の方に入っていたらと思うんですが、自由に動きやすいところが出てくる。先ほどお話があったように、浄水場と送配水と別々のところになったら、それぞれまた0.5人とか1人必要となってしまうわけですね。両方一緒にやれば、1人の人間が両方見れるっていう話もあるんで、そうやって考えたほうが良いのではないのでしょうか。

それから料金のほうも、2000口で350口訪問集金しなきゃいけないっていうのは、ちょっと多いですね。多いって言い方は悪いんですけど、それをやはり各戸訪問して徴収しなきゃならない理由が何かあるんですか、歴史的に。

伊藤課長

たまたま合併以前の浜益地区においては、基本的には集金制度を導入しておりました。それを合併後は、当然口座振替に移行するという事で各々督励等もしながら現在に至っているところでありますけれども、今報告申し上げましたように、350件ぐらい残ってるという状況でございますので、これは当然集金制度ということじゃなくて、将来的には口座振替にするなり、自主納入の納入方法に切り替えるということではやっているんですが、なかなかなくなる。ですから一つの課題にはなっております。

神田委員

料金の集金なんですけどね、私の家もまだ個別訪問でやっています。これは、合併以前から地元の雇用対策の意味合いもあって行われているのですが、他の公共料金と同様に口座振替に変更できる方も少なからず居られることと思いますので、市のほうで切り替えについて周知していけば、集金の件数は減らせるものと思います。

伊藤課長

住民の方の意向も調査しながら、集金業務の廃止に向けて事務を進めてまいります。

余湖会長

他に何かございますか。

小笠原委員

今各戸の検針やっていますが、その業務というのは、この中に全部含まれるんですね。私人に頼むのでも法人に頼むのでも。

伊藤課長

はい、そうです。

小笠原委員

わかりました。

余湖会長

いろんな背景があるとういことがわかりましたが、眞柄委員からお話がありましたけど、これから具体的に参考見積りを取るといときに市はもうちょっと前向きに物考えたほうがいいんじゃないかというご意見だったと思いますけど、何か選択肢がいくつか出てくるような感じがしますよね。一つだけでなく。

ですから、さきほど神田さんのご意見もあつたし、維持管理上、将来のことも含めてどういう姿勢がいいかということをしちんと練らないと、市としての戦略がちょっと求められるような気がします。

ですから次回の委員会とかその次の委員会だとか、そういうときには今出たようなご意見に答えられるように事務局は準備をさせていただいて、選定作業に入っていただくということが重要でないかと思います。

眞柄委員

大阪府がね、大阪市を指定管理者にするってもうほぼ確定したんですけどね、石狩西部を指定管理者にして石狩西部にやってもらう方法もあるんじゃないですか。一番簡単に話が終わるんじゃないかと思うんだけど。ただいくらでやってくれるかわからないですけど。案外そんなことも考えたほうが、オプションとして考えたほうがいいのかもかもしれませんね。

余湖会長

もうちょっと柔軟に、色々なことを考えたほうが良いと思います。

田口室長

まず市で先月末という話をしましたけど、ちょっと時間が遅れてるんですけど、早急に算定基準書を作って、それをもってまずは参画していただけるような会社に見積りをいただいて、それからコストの面もありますので、それからある程度方針が決められていくのかなと思います。ただ基本的には第三者委託も含めてですね、直営じゃないかという思いがありますので、その辺を次回の委員会にはある程度お示しできるような形ではと考えております。

余湖会長

はい、わかりました。それではその他、ご意見・ご質問ございませんか。

眞柄委員

柔軟なということからすれば、今こっこの水道を受託してる会社ありますよね。そ

の会社が受けるということについて、優先権を与えることは出来ないんですか。受託側の人間ね、今こっちは何人いるかわかんないけども、余裕がないわけじゃなくて多分余裕があるでしょうから、そういうところも。ただそれはお金の計算になっちゃいますか、それは。

田口室長　　そうですね、うちで考えてる額よりそれを下回るのが一番市の求めるところだと思います。今まで、前回についてはある程度大雑把な中で見積りをもらっていますので、もう少しシビアな形で見積りを取ってですね、合うか合わないかというのが一番の問題だと思いますし、今後についてもお金だけではなくてですね、実績だとかそれも含めて、検討委員会なるもの作った中でその辺の議論がなされていくのかなというふうに思いますけども。

眞柄委員　　はい、わかりました。

余湖会長　　結構思ったより色々問題がありそうですね。

はい、わかりました。他に何か今のうちに色々なことを言っといたほうがよろしいかと思います。動き出すとなかなか事務局も動き取れなくなりますので。

他にご意見ございませんか。今日は特に決めるというお話じゃないので、じゃあこの辺でよろしいでしょうか。

伊藤課長　　それでは休憩をちょっと取っていただきたいと思います。

余湖会長　　はい、わかりました。それでは、40分まで休憩とします。

【15:30 休憩、 15:40 再開】

伊藤課長　　それでは、「石狩市水道事業変更届出書（合併に伴う水道の事業統合認可）」について余湖典昭会長より答申をいただきます。

余湖会長　　それでは答申させていただきます。「石狩市長田岡克介様 石狩市水道事業運営委員会会長余湖典昭 石狩市水道事業変更届出書（合併に伴う水道の事業統合認可）」について、答申。平成21年5月18日付け石業務第78号にて諮問のあった下記案件について、慎重審議の結果、妥当であると判断する。記 石狩市水道事業変更届出書について。」以上でございます。

白井副市長　　どうもありがとうございました。

伊藤課長　　それでは、白井俊副市長よりご挨拶申し上げます。

白井副市長　　本来であれば田岡市長より、ご挨拶をするところではありますが、出席が適いませぬので代わってご挨拶をさせていただきます。

ただいま皆様にご審議をいただきました、「石狩市水道事業変更届出書」の答申を余湖典昭会長よりいただきました。ありがとうございました。

5月18日と本日の審議におきまして、委員の皆様には貴重な時間をご提供賜り、活発なるご論議をいただきました。まずは心よりお礼を申し上げたいと存じます。

特に眞柄先生と佐藤先生におかれましては、前回に引き続き、遠方よりわざわざお越しをいただきました。重ねてお礼を申し上げる次第であります。

今後につきましては、この届出書をもって必要な手続きを迅速に取り進めてまいりたいと考えております。

水道はこれまで感染症対策としてその役割を果たしてきておりますが、我が国では生活用水ばかりではなく、社会経済活動に必要な水としても大きな役割を担いながら、津々浦々において、提供され続けてきております。そのため水道の持続性は社会経済の持続性をも律しており、本市におきましても水道は極めて重要な、社会基盤施設としての役割を担い、その責務を果たしているところでございます。

このような役割を担う水道が、一時たりとも良質な水を供給することができなくなるということがないよう、私ども市民の皆様と情報を共有しながら、計画的な更新などを積極的に進めてきております。

このような中で本市における厚田・浜益の簡易水道事業に目を転じて見れば、経営的・技術的基盤が大変厳しい状況にある中で、今回ご審議いただきました届出書によ

り、公的に事業統合ということで、合理化を具現化させようとしてまいりたいと存じます。

私ども今後とも、人口も水量も右肩下がりということもございます中で、これらの時代を乗り切るために、市民の皆様へ積極的な情報を開示し、共に考えてまいりたいと思っておりますので、引き続きお力添えのほどをお願い申し上げます。お礼の挨拶と代えさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

伊藤課長

白井副市長には、この後公務がございますので、退席させていただくことをお許し願いたいと思っております。

白井副市長

どうもありがとうございました。

伊藤課長

それでは余湖会長、よろしくお願いいいたします。

余湖会長

それでは、報告案件の2番目、今後の作業として非常に大きな問題であります「水道料金のこれから」ということで、今後のスケジュール、事務局としてどう考えているか、どのような方針で議論を進めていくか、この辺について説明をしていただきたいと思っております。よろしくお願いいいたします。

蛭谷主査

業務課の蛭谷と申します。私のほうから「水道料金のこれから」について説明させていただきます。着席致しまして説明させていただきます。と思っております。

今後の水道事業として取り組まなければならない大きな案件が、これから説明いたします。まさに水道料金の件になります。サブタイトルといたしまして、「料金改定を見据えて」ということで説明させていただきます。この料金改定をご議論していただくにあたりまして、やはり水道事業と水道の事業会計の仕組みについてご理解していただくことが必要になりますので、今一度この点について説明したいと思っております。

それでは画面のほうをご覧ください。水道事業は、水道料金を主な収入といたします。独立採算制で経営されております。先ほども説明いたしましたけれども、まず水を供給するのに必要な浄配水場や配水管の建設には、その大半をローンを組みまして建設いたします。建設しました施設を運転して皆様のお手元に水を送るわけですが、このためには多額の維持管理費用が必要となります。そして水を供給いたしまして、皆様からは水道料金をいただきます。この水道料金をもって施設の維持費、それからローン、利息をつけて借金返済をいたしますが、これらの費用を水道料金で賄う形になります。そして石狩市の場合、昭和50年代から平成にかけて、急激に人口が増加いたしまして、その後も給水区域の拡大、こういったことで新たな施設建設が必要になったり、また老朽化する施設の更新のために、さらにローンを新たに組んで、また建設していくと。こういったサイクルの中で、水道事業は行われております。

では次に、水道の予算について説明いたします。まず3条予算、収益的収入及び支出。これは毎日水を供給することによって発生する収入と支出であります。家計に例えますと、「生活費」と「給料」の関係。先ほどの説明の中で、わかりやすいように月給ということで説明をいたしました。予算ですので月給と生活費、これを12ヶ月1年間の成果、これを端的に表すのが3条予算です。この結果赤字が出た、黒字が出たということで、経営成績を出します。それが先ほどのグラフにもありましたけれども、3条予算の赤字・黒字という関係になります。主な収入の内容としましては、ご覧のとおり水道料金収入でして、この図は今年の予算をモデルに作っておりますが、収入13億に対しまして水道料金は実に12億、約9割近くを占めております。対しまして支出のほうですが、まず施設の維持管理費、それからローンを返済するにあたっては利息が発生しますので、この利息も合わせて返済しています。そして減価償却費。こういったものが主な支出の内容となっております。

では、もう一つのほうの予算について説明いたします。4条予算、こちらは資本的収入及び支出と呼ばれております。これは施設の建設に係る収入と支出の関係です。家計に例えますと、住宅建設ローンの借り入れと返済。これは支出の効果が一年間ではなくて複数年に及ぶということで、3条予算とは区別して整理されているものです。収入の内容といたしましては補助金、これは国庫補助金ですけれども、この国庫補助金が対象になる事業というのは極めて限られておりますので、施設を建設するときの

元手としましては、その下にあります企業債、いわゆる借金。これが大半を占めているわけです。対しまして支出については、過去に借り入れをしましたローンの元金返済。それから施設建設のための工事費用。こういったものが主な費用になります。さて、こちらの予算の収入と支出の関係ですけれども、過去に建設したローンの返済、これが蓄積されていきますのでどうしても収入が支出に不足しております。この現象というのは、どこの水道事業体においても構造的にこういう形になっております。今年の予算でいいますと、こちらの4条予算は総額約19億あるわけですけれども、収入は支出の19億に対して4億不足している状態であります。

ではこの不足のバランスをどのように図るかといいますと、次の図で説明いたします。これは3条予算と4条予算、この二つの予算が相互に関連をしていることを示しているものです。この図では、料金収入の流れを中心に説明をしたいと思っております。まず皆様からいただきました料金収入というのは、3条予算の大半を占めておまして、施設の運転管理費、それから支払利息、減価償却費に充てられるわけです。一方の4条予算は、先ほど説明いたしましたように、恒常的に収入が支出に不足しています。これを補填するのが、3条予算の減価償却費。これがそのままスライドすることによって、4条の収支バランスが取れるという形になっております。そして4条予算でもって建設した施設が、次の水道料金、つまり新たな収入を生み出すといった形で3条・4条の循環サイクルが出来ていることがわかります。

会計の説明についてはこれで終わりますので、ここで今一度石狩市の現状について説明したいと思います。

春に策定いたしました中期経営計画においては、水道料金収入が減少する一方で施設整備などによる費用の増加によって、収益と費用のバランスが崩れることが明らかになりました。しかし緊急修繕への対応など危機管理上の観点から考えますと、水道というライフライン維持には利益積立金残高として最低2億円の確保が必要です。そのためには、平成24年度までには料金改定が避けられない状況であるということ、私たちは中期経営計画策定の中で確認したところです。

では、こういう状況の中で石狩市は過去にどのような料金改定をしてきたのかといいますと、現在の料金については平成9年4月に実施した料金改定、これが現在の料金になっております。この時の改正の内容は、一つ上にあります平成元年と同様に消費税の税率を転嫁したものであり、実質的な料金改定については、昭和60年7月まで遡ることになります。実に昭和60年以降は実質的な料金改定を行っておりません。これに対しまして、道内の主な市はどのような期間で見直しをしているのか、これを示したのがこのシートであります。ご覧のように、概ね3年から5年の間に見直しをすることを前提として料金を設定している都市が殆どでございます。こういったことから見ますと、現在の石狩市はかなり特異な状況にあるかと言えます。

さて話を一つ戻しまして、先ほど中期経営計画では、平成24年までには料金改定が必要ということになっておりますが、次に料金改定へ向けての手順について説明いたします。まず21年度4月から中期経営計画を策定して、ここで24年には料金改定ということは明らかに致しました。今年度はまさに具体的な作業に入っております。その入り口としてまず料金算定要領の策定。これは料金改定の方針を決めるものです。明年度以降、この料金改定について、この運営委員会にお諮りをしまして、その後議会へ条例を提案致しまして議会のご審議をしていただきまして、24年度当初より新料金と、こういう手順で現在考えているところであります。

ではいよいよ料金算定要領の説明に入っていきたいと思っております。まず料金算定要領とは何か。これは水道料金を決めるための基本方針であります。その主な内容として大きく三つに分けて説明したいと思います。一つ目は料金の見直し期間、二つ目は料金で賄う費用の範囲、三つ目は料金設定、いわゆる料金体系になります。

この三つについてそれぞれ説明してまいりたいと思っております。まず一つ目の料金見直し期間ですが、今回新たに料金見直し期間を設定いたします。この期間につきましては、先ほどシートでもご覧いただきましたように、道内の都市は概ね3年から5年ま

での間を設定しております。こういった状況、それから石狩市の今後の財政状況を踏まえまして、恐らく原則的には3年から5年の間に設定されるのではないかとこの事で今検討しております。ですから、今後これが決まりますとこの期間ごとに、とにかく見直し作業をするということになってまいります。

次に料金で賄う費用であります、これは浄水場等の施設の運転、維持管理、施設の建設に係る費用、これらを賄うのに必要な部分を料金で賄いますということです。これは言い換えますと、毎日水を届けるために必要な費用や建設ローンも料金で支払う必要があると。先ほどの独立採算のところの説明したような事と同じになりますが、この費用の範囲はどこの事業体でも大差なく、概ね同じ費用を料金で賄うという考えになっております。

次に三つ目ですが、料金設定・料金体系ですけれども、現在の料金設定はどうなっているかと言いますと、メーターの大きさで料金を区分しております。メーターが大きいほど高い料金。一般的に皆様のご家庭ですと、13ミリという一番小さいメーターですので、そういった意味では一番安い区分に設定されております。片や工場ですとか、学校ですとか、大規模なビルになりますと、50ミリですとかそういう大きいメーターになりますので、そういう場合は高い料金になっております。それともう一つ、使用した水量に応じて料金を支払う仕組みになっておりますので、使えば使うほど料金が高くなるような仕組みになっております。今後については、基本的には現在の料金設定を維持しつつ、具体的に費用負担の割り振り、言い換えれば基本料金をいくらにするとか、従量料金、水量に応じて支払っていく単価の議論というのは、まさにこれからになってこようかと思っております。

ではこれらを説明したところで、現在の石狩市の料金設定をわかりやすく説明したのがこのグラフです。先ほどのメーターの大きさで区分していて、大きければ大きいほど高い料金を支払うというのを、端的に示したのがこのグラフです。水量のほうは7トン、10トン、14トン、20トン、50トンと提示してありまして、ここで例示しておりますのは、13ミリのメーター、20ミリ、40ミリ、50ミリを棒グラフで示しております。ご覧のとおり、メーターが大きくなればなるほど、同じ水量であっても料金が高くなっていることがお解りいただけるかと思っております。

最後に、今後の水道料金改定の議論に当たってなんですけれども、このグラフはメーター口径別の水道料金収入に占める割合を示した円グラフです。ご覧のとおり、13ミリのメーターの料金が全体の65.6パーセント、約7割弱を占めております。先ほど料金設定の具体的な議論はこれからという説明を致しましたが、まさにこの部分が今後ポイントになるかと思っております。言い換えれば、市民の皆様が水道事業を支えていただいているということが、端的に分かるかと思っております。

以上で説明を終わります。

余湖会長

はい、どうもありがとうございました。

今事務局のほうから、先ほど説明のあったような水道料金の仕組み、それから今回新しくといいますか具体的に出てきた話としては、料金の見直し期間というのは石狩市では今まで決めていなくて、今ちょっと計算したのですが平成24年に値上げすると実質的には27年ぶりの値上げになるのかな。見直し期間が例えば5年でも、5年に一度必ずしも上げるということではないですよ。

蛭谷主査

そうですね。作業としては機械的にやりますけれども、ただそれは当然この運営委員会に諮りまして、そこでするかしないかというご意見を頂戴して、最終的に事業者で判断するという形になります。

余湖会長

そういうものを今まで決めていなかったので、きちんとルール化しましょう、というのが事務局の方針であると。具体的な値上げ云々の話、料金体系の詳細はこれから検討するけれども、口径別の料金収入を見ると一般家庭の13ミリが圧倒的に多いので、やはり市民への生活への負担というか、そういうものをお願いせざるを得ないというようなのが大体のあらすじです。

これから次第にこの議論がかなり大きな委員会の話題になりますけれども、今日は

序論ですけれども、何かご質問ございますか。

菅野副会長

ちょっといいですか。ポイントの25、メーターの大きさというのは一般的な表現なのですか。これから市民に色々周知されたときに、こういう言葉というのはどうなんだろう。やはり、メーターの口径とか、そうしたほうがいいのではないのでしょうか。どうですか。

余湖会長
蛭谷主査

グラフのほうはメーター口径になってるんですよ。
そうですね。その辺は説明をするときには配慮して、わかりやすい言葉で説明をしたいと思います。

菅野副会長

メーターが大きいと高いというのはね、一般の人はあまりわからないのではないかと、ということです、単純に。

蛭谷主査
余湖会長
安藤委員

解りました。
他になにかありますか。
他の市町村と比較して、今まで見直しが長い間されなかった、しかもしないで済んだという主な理由はどんなことがあったのでしょうか。こんなにも今までこれたという。

蛭谷主査

昭和60年に実質的な料金改定をしてるわけですが、その時には当然札幌市からの分水を受けてるんですけれども、その辺を上手にコントロールしながら、地下水・井戸、こちらのほうがずっと単価が安いわけです。この辺を有効活用していきましょうという方針のもと、施設の整備もしてまいりましたし、また町もいいタイミングで人口が伸びていった時代なんですね。ですから右肩上がりの時代と、ある意味経営努力という部分が重なったので、その時も本来は概ね4年程度の期間を想定した料金だったのですが、思いのほか長きに渡って料金改定をしないで何とかやってこれたというところなんです。

ただ、さすがに中期経営計画の議論の中でも説明してまいりましたが、25年からの西部からの受水を受ける事と、給水収益がよいよ20年度から右肩下がりに突入してきたということがあって、このような状況になっているということです。

安藤委員
余湖会長
眞柄委員
蛭谷主査
眞柄委員

ありがとうございました。
よろしいですか。他に、どうぞ。
新規の契約者について、今でも13ミリを認めているのですか。
申し訳ありません。もう一度お願いします。
新しく契約する人がいるとしたら、その人には13ミリの使用を認めているのですか。

蛭谷主査

通常一般家庭の方が、新たに水道を取り付ける場合には13ミリ、それは建てる建物ですとか、用途に応じて変わってくるかと思えますけども。

眞柄委員

今時普通のお宅でも昔は13ミリで済んだかもしれないけれど、今は20ミリでないと不便ですよ、水の使い方を見ると。新しい人には13ミリをやめて20ミリにするとか。もう20ミリの時代ですよ。日本人が皆慎ましくて、一つの家に台所しか蛇口がない時代には13ミリで済んだけれども、今のように、風呂もトイレもシャワーも車を洗うのも、というような時にはね、13ミリじゃもうもたない。サービスが行き届かないですよ。

これはもう20ミリくらいにしないとね、気持ちよく水道を使ってもらわなきゃね。水が出ないのに料金を上げられたら頭にきますよ。それくらいにしてあげないと、要するに料金が安いってということだけじゃなくて、使い勝手がいい水道にするってことで、やっぱり料金というのも決まってくるわけだから、そろそろ13ミリはやめるとか。だって亜鉛鍍金鋼管なんてやめたわけでしょ。亜鉛鍍金鋼管を使っていれば、錆びがきて赤水が家の中で出るからやめましょうと、亜鉛鍍金鋼管を止めたわけですよ。

それと同じように、もう13ミリはやめるぐらいのつもりでやっていかないと、将来的にもたないですよ、水道事業は。13ミリの面倒ばかりみていたら、本当に。さっきの漏水を直すのだから、13ミリで点滴漏水していたら、見つけるのが大変ですよ。20ミリだったら宅内漏水も見つけやすくなるんだから。

そのような経済性も考えると、そろそろ20ミリにして、最低の圧力も高めにするというふうにしていかないと、サービスも十分行き届かなくなる。そういう意味では13ミリの時代から20ミリの時代に変えるんだと。それは新しく家を建てたりする方には、20ミリにしましょうと言って、窓口で誘導されたほうがいいですよ。指定工事店なり、建築の大工さんや代理店さんにも規則ではないけども、そのようにしたほうが同じく水道を使えますよという、そういう努力もしておかないと。料金を上げたら済むというわけではなく、料金を上げて何がプラスになるのか。例えば料金を上げる時には20ミリにします。20ミリを使ってもらえるようにしますと。昔は13ミリじゃないと各戸に配れなかったから13ミリだったわけです。今は段々施設能力が上がって出せるようになったのだから、もう20ミリにしますからというような理由にもしていいと思いますよ。

余湖会長
蛸谷主査
余湖会長

事務局、回答できますか。

この件に関して、今結論を申し上げるのはご勘弁いただきたいです。

メーター口径、水量ごとの水道料金を見ても、13ミリと20ミリではそれほど変わらないですよ。

眞柄委員
余湖会長

違わないです。

例えば、これを殆ど同じにして、20ミリでもそんなに高くないという、イメージを与えとかという選択肢もあるかもしれない。

眞柄委員

工事店の人も、13ミリだとやり難くて、20ミリのほうがやり易いですよ、やはり。宅内もヘッダーになっているから、ヘッダー方式にすると20ミリじゃないともたないですよ。

清野主査

いま眞柄先生がおっしゃられたことは、必要水圧を確保すべきご家庭や、それを求めるご家庭に対して、しっかりとサービス提供するという観点からは正にその通りだと思いますし、先生はそのようなお考えでご提案下さったかと存じます。このご提案は、水道事業経営全体の事を考えますと、誤解を招くかもしれませんが、料金収入が増える方向に働きます。そういった経営的視点では、事業経営上、好ましい事かもしれませんが、勿論、サービス上も希望する水圧をもしっかりと確保できるわけですから、一般論としては市民と水道事業者間においてwin-winの関係になるかと思います。ただ、現在の石狩市の上水道事業といえますのは、眞柄先生も十分ご承知のとおり、主水源である地下水を如何に有効活用して、地下水の単価よりも相対的にコスト高な札幌分水の水量を抑え込むかということも併せて気遣わねばならないという地域特性があります。そのためジャブジャブと市民の皆様にご水道水をお使いいただくと、その割高な分水水量が地下水を水源とする浄水に対して大きなシェアを占めてしまい、結果的に全体の水道事業会計が悪化してしまうという、ある意味においては歪な構図になっております。

ただし、石狩西部広域水道企業団から用水受水する平成25年度以降につきましては、市民の皆様にご先程ご説明したような観点からの節水をお願いしなくとも大丈夫なように、適切な水量を確保しておりますので、その後は十分な水圧のサービス向上という視点から20ミリというものを窓口で積極的に情報提供することも考えていいかなとは思っています。

なお、市民の皆様にご時間的に継続したサービスを平等に提供するという意味では、13ミリが製造されなくなる時まで、それを無くすという事は難しいと考えているところです。

現時点では、こういうご回答に留めさせて下さい。

眞柄委員
余湖会長

結構です。

まあこの辺りは経営戦略もありますしね。水道ビジョン改訂版の時の話題になりますね。

阿部委員

他にいかがですか。はい、どうぞ。

水道事業は独立採算制で、水道の料金で収入を大方賄っているという事で考えていくと、私の疑問は、消防で使っている水はどうなっているんでしょうか。その辺の料

金をどう精算をしているのか、それとも法律で消防で使う水は無料にしないと水道事業に言われているものなのか、そこらへんをお聞きします。

蛸谷主査

これは過去にも一回議論があったと思うんですね。全ての収入が水道料金なのかというふうなお尋ねが、阿部委員のほうから過去にあったかと思います。今話題に上がりました消火栓に関する費用につきましては、これは水道料金ではなくて負担金という形で入っています。これについては制度的に、そもそも火事の消火に必要な費用は水道事業の事業者として費用を負担すべきものではないという、予め取り決めがなされてますので、これについては皆様の料金負担にならないような仕組みになっております。

ただ先ほど独立採算制と申し上げましたのは、基本的に水をお使いいただくための必要な費用、皆さんが蛇口から使う水、これについては水道料金で賄うのが基本です、という趣旨で説明させていただいたわけです。

阿部委員

そうしますと、消火栓とか消防で使っている水の量というのは、メーターなどないということなのでしょうか。

蛸谷主査

メーターというのは、消火栓にはついてるわけではありませんけれども、使用した水量については消防の方と協議してきちんといただいておりますので、火事にかかった費用が皆様方が支払っている料金に紛れ込むような事がないようにしております。

阿部委員

その費用は国が負担をしているということですか。

蛸谷主査

国というか、元は税金になりますので、制度的には、一般会計のほうで手当をして水道へ繰入れをする。実際、石狩市の場合は、消防事務組合がありそこで負担しますけれども、元々は税金の中でやるという形になっております。

阿部委員

わかりました。

余湖会長

他にいかがでしょうか。

ちょっと一つ伺いたいんですけど、今回このプリントでいうと21ページに料金改定の手順というのがあって、例えば平成21年度に算定要領を策定して、24年から料金制度実施と3年かかるわけですよ。

蛸谷主査

恐らく3年くらいはかかるかと。

余湖会長

例えば、今後見直し期間を3年にしたとして、その場合、どういうスケジュールになっていくんですか。

蛸谷主査

概ね3年から5年と言う事で説明させていただきました。ただこれは実際、これから市民の皆様や、議会への説明をしてご議論いただく形になりますけれども。

余湖会長

要するに算定要領で3年と決めて、それは条例か何かで決めるの。

蛸谷主査

これはあくまで内規です。

余湖会長

今度例えば平成24年の後には、3年って決めたら24年で実施しますよね。料金値上げの手続きは1年や2年かかりますよね、最低でも。

蛸谷主査

かかります。

余湖会長

そうなると、何か料金改定を実施したらすぐ検討という、そういうスケジュールになりますか。

蛸谷主査

はい、もし原則3年で見直しますと設定すれば、新しい料金になったらすぐ事務局としては動き始めて、ということになりますけれども。

余湖会長

上げる、上げないは別にしてね。見通しを立てるということでね。

蛸谷主査

そうです。

余湖会長

はい、わかりました。

蛸谷主査

ただ実際、どの幅でやるのかというのは、これからです。

原則論として概ね5年や4年と言っても、必ず社会経済情勢の激変に対応するための調整規程を置きますので、必ずしも杓子定規に5年なら5年は絶対動かさないとか、3年なら3年動かさないという事ではないです。

余湖会長

要するに、こういうものは3年でも5年でも決めたら、常に3年先5年先の収入見込みを立てて、戦略を練っていかなければならないという意味なのかと。

蛸谷主査

そうですね、作業上常にそういうことは機械的に行っていくということですね。

余湖会長

はい、わかりました。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

それでは最後の報告事項で、第三者委託の評価について、事務局のほうから説明をお願いいたします。これは今日配られたパワーポイントの資料ですね。それと2冊印刷物もありますね。

武藤主査

工務課の武藤といいます。第三者委託の評価につきましては、私のほうからご説明させていただきます。では座って説明させていただきます。

第三者委託の評価についてですけれども、今日お配り致しました「業務評価要領(案)」、それから「総合評価」、この二つの資料の説明になります。まずこの説明の仕方になりますが、最初パワーポイントを使いまして評価方法の流れと評価結果について大まかにご説明致します。続いてパワーポイントを一旦置いてから、電気を点けてお手元にあります資料につきまして、説明しきれない部分を補足説明するという形で進めたいと思います。

それではまず最初に、なぜ第三者委託の評価を行おうとしたか、その目的・ねらいについてご説明をいたします。ご覧の画面のとおりですね、目的・ねらいについては三点ほどあると思います。まず一つ目は、第三者委託が皆さんの生活に密接に関連している水道水を取り扱う業務であるということから、その業務水準、それから内容が市の要求する水準や規定を満たしているか、それを適切に、また十分に検証されなければならないと考えたことによります。二点目といたしましては、第三者委託を導入する際に、民間の企業が水道施設を管理するという事に対して、不安を訴える市民の方が少なからずいたという事から、第三者委託業務が適切に行われているということの情報提供をする必要を感じた事です。三つ目といたしましては、この第三者委託の業務がどちらかといいますと地味で地道な作業の繰り返しでありまして、受託者が色々努力しても市民の皆様の評価になかなか結びついていかないという面がありますので、努力した評価を公表するという事で、受託者にとっても有益ではないかと考えたことによります。こうした三つの目的を持って、評価をしていきたいと考えております。

続いて評価方法についてですけれども、まず三つの項目、「月間業務の評価」、「業務の品質評価」、「業務改善提案」についての評価、この三つについてそれぞれ評価をし点数をまとめていきます。次にこれらの点数を合計し、前もって作ってありました「評価基準」というものに照らし合わせ、四段階ランクの中でランク付けをして「総合評価」とします。評価としてはこのような流れで進めていきます。

次に、各項目の内容を説明していきます。まず「月間業務の評価」についてですが、これは毎月既の実施しております月間業務の評価についてこれを点数化し、年間業務の評価に加えるものとなっております。毎月の業務評価というものが毎月市の工務課長、それから工務課の監督員2名の合計3名で、受託者から毎月提出されてきます月間業務報告書を見て、更には月間業務報告会というのを開いてますので、そこで受託者の責任者から報告を受けます。そういったものを全て判断して評価していきます。毎月10項目について、「優・良・可・不可」の四段階で評価していますので、それについて点数化します。「優」と評価したものについては5点に置き換える。「良」と判断したものについては4点というような形で点数化していきます。3人の評価を平均しまして、これを100点満点の点数に換算していきます。こうして毎月の点数を求めていきます。求めた毎月の点数を平均して年間業務の点数としております。

続いて業務の品質の評価になります。これは業務の契約書、仕様書、要求水準書などに規定されています事項、それから要求水準の項目などにつきまして、評価対象として抽出します。各項目ごとに点数の基準を設けまして、点数を算出して評価していくものです。項目は93項目を設けまして、一項目の点数は5点満点としております。従いまして、全ての点数を合計しますと465点となります。この465点を100点満点の値に換算して、品質の評価点数としていきます。

続きまして業務改善提案の評価になりますが、これは受託者が自らの業務や市の水

水道の業務につきまして改善を目的とした提案を提出した際に、これを評価して点数をつけるものです。提案をしたこと自体の評価点と、提案内容を評価した点数の合計となります。中身としましては、提案を出したことで3点の点数が与えられます。提案の内容については市水道室で吟味致しまして、0点から7点までの点数をつけるという形になっております。最大は10点ということになります。業務改善の提案は、民間の持つ技術力・企画力を生かしていく有効な手段と考えておりますので、この評価はボーナス点の意味合いとしております。

そして総合評価となりますが、これら三つの項目の評価点を合計しまして、その点数を評価基準に照らし合わせ、四段階のランクの中でランク付けをしていきます。ランク分けの基準としましては、AAAを170点以上、AAを140点以上170点未満、Aを120点以上140点未満、Bを120点未満としております。こういった評価方法によりまして、評価していく形になります。

続きましてこの評価方法、要領によりまして、実際に平成20年度の第三者委託の評価を出してみますと、このようになります。「月間業務検査」での評価としましては79.9、「品質(業務内容)」の点数は81.1、「業務改善提案」は10点満点。合計しますと171.0点、ランクとしましてはAAAという形になります。また、下の「所見」といたしまして、この点数評価、ランク評価だけでは汲み取れない部分というのがありますので、それを所見で表すようにしております。今回の所見では、業務の開始年でありながら支障なく適切に業務を行ったこと。それから市の水道室の事情も理解し、老朽化した施設を適切に管理し、また新たな取組みなども取り入れて維持管理の向上を図ったこと。それから業務改善の提案を積極的に提出したことなどを評価しました。

この評価をグラフで表してみます。そうしますとこのような形になりまして、委託前の市の業務水準をAランクといたしまして、第三者委託業務の評価はAAAという形で、このような位置になります。パワーポイントの説明は以上となります。

続きまして、お手元の「評価要領(案)」と、「総合評価」の結果につきまして、説明したいと思います。続けてよろしいでしょうか。

それでは「業務評価要領(案)」になりますが、こちらの1ページ、2ページをご覧くださいののですけれども、足りない部分の補足ということで、「月間業務評価」での点数評価についてです。この月間業務の評価は10項目で行われていますが、その評価基準「優・良・可・不可」の評価基準というものを、2ページの表1にお示しをしております。この評価の内容についてですが、月の業務ですので、判定する10項目の業務によりましてそれぞれ各月に業務内容の軽い・重いといいますが、内容量の多い・少ないというものがあります。そういったものは、これでは判定する要素とはしておりません。業務内容が少なくても、また内容が軽いものであっても、仕様書と要求水準書の規定に照らして問題がないという場合は「良」と判定されます。注意点や改善点が指摘された場合が「可」という形になりまして、「優」は監督員のそれぞれの判断によって業務が優れていると判断した場合に「優」をつけるということになります。こうして評価した結果の評価点を全ての月で平均して、年間の評価点にするという形になります。

続きまして3ページの「品質(業務内容)」の評価になりますが、これについて簡単に補足いたします。先ほども説明いたしましたが、仕様書や要求水準書に規定されている事項の中から、評価対象となるものを抜き出して評価していきます。従って、出来るだけ客観的に評価できる事項を抜き出して評価しているという事になります。その表が、10ページをご覧くださいののですが、これが品質の評価項目の表になります。これについて若干説明いたしますと、要求水準の水質・水圧といったような項目につきましては、この表の左の数字の8から下の項目になりますが、こういった項目につきましては達成されることが条件となりますので、全て達成をしたときに満点の5点が得られるという形になります。従って、1時間でも水準・基準を満たさない時は0点という点数になります。これらの項目は、すなわち5点か0点かという評

価になります。このような評価につきましてはかなり厳しいのでは、と思えるような判定をしていると思います。その他の評価項目につきましては、評価対象となる作業・業務などの進捗状況や履行状況によって、点数が得られるようになっております。「品質」は、このような項目について全て点数を出し、合計して100点満点に換算して評価点とする、という形になります。

続いて「業務提案」についてですが、4ページをご覧ください。これについては先ほども説明をしておりますが、提案を提出していただいたら3点が入ります。あとは提案内容を水道室で検討して、0から7までの点数をつけるという判定方法です。内容の判定基準は、4ページの表のとおりとなっております。この際、この提案が採用されるかどうかという事は、評価を決める要素には入っておりません。あくまでも内容の良し悪しを見ていくという形になります。

続きまして5ページになりますが、「総合評価」になります。総合評価につきましては、表-2を見ていただきたいのですが、こういった判定基準を設けております。AAAからBまでの四段階で、それぞれのランクについての評価基準の内容を表にしております。中身を少し説明いたしますと、Aランクは今までの市の水道の業務水準レベルと考えまして、AAが民間の持つ力が生かされているレベル、AAAはその最上級の評価ということになります。そして逆にBというのは、要求されている水準が満たされていないレベルということで、もしBランクとなった場合は、受託者に改善のための提案書を出していただくこととしています。

こういったような要領で第三者委託を評価していきます。評価結果の詳細につきましては、もう一つお配りしました資料を見ていただきたいと思います。この中身については詳しくは説明はしませんが、ランクの評価とともに、先ほども説明しましたが所見としまして、点数評価だけでは汲み取れない評価の詳細を付け加えております。

内容については以上です。そして、この評価のこれからの取扱いについてですが、今日皆様から意見をいただいて、その内容を検討しまして、更に北海道や厚生労働省からのご指導やご助言をいただいた後、取りまとめをしまして最終の形として皆様に報告したいと考えております。その後、形が決まりましたら施行という形で公表できればと考えております。説明については以上となります。

余湖会長

どうもありがとうございました。

今武藤さんから最後にお話があった点が重要で、一応「案」として今日渡していただいております。ご意見を伺いたいということですが、多分それは評価方法の中身についてということですね。

武藤主査
余湖会長

はい、そうです。

それと同時に「案」とはいえ、この一年間の評価はかなり高いという案が出てきたので、そういう意味では市民の委員の方に対する「案」とはいえ、メッセージの一つであるということだろうと思います。

それで、いろんな分野で役所が民間に業務を発注した場合に、例えば公共工事などでも工事成績の評価ですとか竣工時の検査などがあって、点数付けして公開するということはもう一般的に行われていることですね。

最初に武藤さんからお話があったように、特に水道の場合は、市民に対してきちんと運転されていたことを公開するということが非常に重要だと。

ただお話を聞くと、今まで公共工事とかは国土交通省などから、きちんとした「こういう方法でやりなさい」というような形があって、それに則ってやられていますが、水道の場合には、第三者委託についてはそのようなものはあるのですか、今の時点では。

武藤主査

こういった評価の仕方、ルールといったものはないと思います。今第三者委託を実施している他の自治体は、おそらく自分の内部では色々な評価をしていると思いますが、それを積極的に外に公表するというような形では、まだ私も知らないものから。

余湖会長

そういった意味では初めて、石狩市が画期的な事をやるということですね。

武藤主査
余湖会長

それはどうかわかりませんが。

もっと自信を持っていただいてもいいのではないかと思います。

多分事務局のほうは、この中身を考えるのに苦労されたと思います。それで、主に専門的にはなりませんけれども、この評価方法や表現方法などについて市民に情報を出すということは、市民にある程度分かりやすくということも条件の一つになります。そういうことで、中身が結構ボリュームがあって専門的な部分もありますけれども、この原案についてご意見を伺えればと思います。いかがでしょうか。

菅野副会長

これは最終的に市民に公開・開示の形になるということを想定してやっていると思うんですが、この中で、例えば言葉ですね、「優・良・可」とか、「監督員A」とか。なんとなく監督員というと、上から評価しているような印象を受けるんじゃないかなと思います。市の監督員というのは正しいのですが、「評価員」とか、そういう名称を使って少しレベルを、あまり上から評価するのではない形を取るようにしたほうがいいのではないかと。また、一般の人は「可」と「不可」という表現が項目に出てきた場合、相当悪いんじゃないかと、こういう評価を受ける可能性はあると思うんですね。

この辺の表現をやはりある程度、もう少し検討する必要があるのではないかという気持ちはあります。評価の基準などは、ある程度客観的に見るためにはこういう基準は必要かもしれません。

余湖会長

成績でいうとだいたい「優・良・可」っていうのが、一般的かとは思いますが。ただ事務局は、総合評価のところは「優・良・可」を使わないでAAAにAAにAと。ただ中では「優・良・可・不可」とあるものだから、この辺の表現はちょっと考えたほうがいいのかもかもしれませんね。

他にいかがですか。

ひとつ聞きたいのですが、どうして100点満点にしないの。

武藤主査
余湖会長

総合評価を100点満点にということですか。

試験というのは、だいたい100点満点で8割取ったらAAAとかとなるんですが、何というか210点満点で171点といたら、これ何割取ってるのかなと、僕らすぐそういう計算をしてしまうんだけど、すごく分かりにくいんですね、数字としてね。だから個々の評価で210点満点になるのはいいんですけど、それを100点満点に換算することは簡単な事なので、そのほうがいいのかと。単純にね。

武藤主査
余湖会長

各評価項目を100点満点にして、それを積み上げる形にしておりましたので。

それはいいんですけど、最終結果が少し分かりにくいかなという気はしますね。

とにかく全国初めての試みですので、気がついたことを自由に発言していただければと思います。

「要領案」のほうの2ページに、「優・良・可・不可」の分類がありますよね。これで「良」と「可」の違いなんですけど、両方とも要求水準等の水準を満たしているけれども「可」はいくつかの注意点・改善点があるというのが、ちょっと意味が分からないんですね。その「良」と「可」の。何か具体例を挙げて説明をしていただけませんかね。

武藤主査

例えば、監督員は毎日毎日の第三者委託の業務に密接に関わっております。そして関わっている中で、やはり細かい事にも注意が及びまして、業務としてはいいんですけども、私たちが見えてもう少し変えたほうがいいのかとか、そういったこともたまにあります。

余湖会長
武藤主査

それは具体的に、市のほうから業者の方に対して、アナウンスされるんですか。

監督員がその場で口頭で行ったりはします。そしてそういったものを受託者が覚えていて、月間業務の中でそういったものを取り入れて評価するというような形で、ちょっと曖昧な感じなんですけれども、そういった意味で、若干主観の入る評価になってしまいます。

佐藤委員

その意味では、ちょうど別紙4の3ページ目の「月間業務評価取りまとめ表」を拝見していて、ちょうど項目9個目の「緊急時対応」というのが、最初はずっと「可」

が多かったのが「良」になって、12月以降「優」になっていったら、というのを見ていて、その差が多分一回「優」になったらその後はずっと「優」みたいな感じで出ているので、これがこうなったからこういう評価をしていますという形で、例で挙げていただくと分かりやすいかなと思って、ちょっと見ていたんですが。

武藤主査 月間評価の報告書には、この評価と一緒に下のほうに、実は各監督員の色々な評価を言葉で載せておまして。それを今持ってきていないんですけども。

余湖会長 元の通知先というか、そういうものには、どうして変わったんだという理由が記録として残っているんですね。

武藤主査 その根拠みたいなものが、ちょこちょこっと書いてあるんですよ。それはあえて入れなかったんですけども。

佐藤委員 一つ一つ全部に入れていたら大変なことになるので、一つの例としてというか、特にこの項目だったらいい例だとは思っていますね。序々に良くなって行って、良いままになっているってようなイメージで、こういう評価をしているというかたちでの分かりやすい例示になるのではないかと思います。

武藤主査 最初の頃はですね、緊急時対応の体制とか、そういったものも十分ではなかったと言ったらおかしいですけども。そしてその後、実際に緊急時で対応するような事柄が出てきます。そういったものに対して問題なく対応できたなというのがありましたので、そういうのが「優」になります。

佐藤委員 それは例えば、緊急事態が起こらなければ「良」のままだったけれど、起こったから「優」になったってということですか。

武藤主査 まあ、そういったような...

佐藤委員 その辺が、その何か物事が起こったからそういう評価になったというふうには判断していいのか、そもそもの体制として良くなったから「優」としたというのか、っていうのは大分違うというか...

下野課長 私も評価委員の1人でございまして、武藤ともう1人と現場にしょっちゅう呼ばれて行くんです。監督なんかもしているんですけども。私は計画書が上がってくるのと、毎日報告が上がってくる書類を見るのと、一月経てば検査をするんですね。業者から報告の内容の説明を受けて、私は書類を見ながら、写真を見たりということで評価をするんですけども、一月の業務に対しての評価です。先ほどの品質のほうは、1年間を通しての評価ですけども。

具体的に言いますと、例えば給水区域換えの作業があるのですが、そういった作業の回数なんかは報告書に書かれてきます。私は書類上でそれを確認して、その実施回数によって「優」としたり「良」としたりという、ひとつの評価の基準としています。

あくまでも書類を見ての評価となりますので、現場に直接触れてる場合と、書類を見ての場合とでは多少評価の基準が変わってくるのかなとは思いますが、それをもって書類での評価が「感覚的」と言われれば、あるいはそうなのかも知れないという気がします。

余湖会長 それは、感覚ではないと思います。書類上の客観的な事実を確認して、その理由に基づいて評価されているのですから。

下野課長 いずれにしても、要領というものがなければ、私もずっと居るわけではないものですから、人が代わったときにこういった「優・良・可」の中身がないと多分評価が出来ないと思うので、要領を作成するという事にしました。

菅野副会長 基準をつけるとき、常に私も感じるんですけども、例えば五段階ね、A B C Dでもいいんですけど、作れば作るほど悩むんですよ、人間ってというのは。特に今学校の先生がいらっしゃるから分かると思いますけれども、どうしても真中当たり偏るですとかね、それはあるんですね。

ですからこの基準というのは、シビアに評価するために五段階にするのか三段階にするのか、二段階ということはないので、最低三段階ぐらい。この辺が難しいところなんですね。

下野課長 私どももこれを作るのに、色々内部でもめました。ペーパーも大分使いました。

最初のたたき台からいくと、かなり内容が変わっております。

菅野副会長 普通にやってるのを「良」というのか、どういう表現するのか。可もなく不可もなくっていうことで表現するのか、良好っていうほうにウエイトを置くのかどうか、そういう感じもあるんで。どうなんでしょう、この評価って難しいでしょうね。おそらく一般的にやったら「良」ということなんでしょ、多分これは。

余湖会長 最後のスライドにありましたけど、委託前の市の要求水準というのがあって、それを基準にしてるんですね。

下野課長 はい、そうです。ベースはそうです。

余湖会長 委託前に市が直轄でやっていたときの条件をクリアしていれば「A」だと。

下野課長 はい、そのとおりです。

余湖会長 だから「AAA」というのは、業者はすごい努力をしているってことですよ。

菅野副会長 市民に公開するから「AAA」といったら、大変好感的な表現です。しかし、中を見ていった場合、そこにあまりにも「AAA」にしては不可の項目が、例えば月間の中にあるということになると、何かこう全体的に違和感が感じられることになりそうですけれども。

余湖会長 だから「優・良・可・不可」も、多分「可」と「良」あたりが、市の水準ですよ。

下野課長 そうです。

余湖会長 このへんの「優・良・可・不可」という表現が、ここに入ってくると、「AAA」と対応しないっていうのは感覚的にあるかもしれない。それは考えられたほうがいいのかもわかりません。

菅野副会長 やはり市民の方が、どのように受け止めるかという問題も頭に入れて表現したほうがいいのかと思います。

眞柄委員 そういふことの判断をするために、ヒヤリ・ハットにどれくらい気が付いて、そのヒヤリ・ハットにどういうふうなことをしたかっていうようなことを、そのレポートなり日報の中に入れてもらうと良く分かる。これは今こうやってるのは、ヒヤリ・ハットじゃなくて、何か起きたエビデンスばかりでしょ。起きる前のヒヤリ・ハットにどれくらい気が付いてたか、それが判断の重要なポイントになるっていうのが、ヒヤリ・ハットを加えると分かりやすくなりますよ。だからヒヤリ・ハットを一万回やって、一個ぐらい本当の事故が起きるんだから、そのヒヤリ・ハットをどれくらい実際にやってる人で気が付いたかっていうのが。

それから、今インフルエンザが流行ってるんだけど、そういったものの予防なんかも含めて、浄水場にいる委託者が毎日健康で働けるように努力をするっていうことも実は案外重要なことなんですよ。それもね、要するにヒヤリ・ハットの部類ですよ。エビデンスが出る前に、どう対応してるかってことがわかるような点数付けをしていますと。それが「優」なんだよね。それがあって分かりやすくなりますよ。

武藤主査 ありがとうございます。

下野課長 いずれにしても、ご意見として伺って最終的にうちのほうで、色々案を要領にしたと思いますので、また次回報告させていただきたいと思います。

余湖会長 他にいかがでしょう。

はい、どうぞ。

佐藤委員 「総合評価」の「所見」のところを拝見していて、確かに委託業者さんを評価するものではあるんですが、ちょうど下から三段落目の下に「市水道部の事情により有効に活用できない面がみられた」という文章があるんですが、業者さんの責じゃなくっていうつもりでお書きにはなられてるんですけども、この書き方すごく強いなと思って。ちょうど1ページ目の…。

余湖会長 もう一回すみません、どこですか。

佐藤委員 「総合評価」の1ページ目の、下から9行目ですかね、真中あたりに「市水道部の事情により有効に活用できない面がみられた。」とあるんですが。

余湖会長 はい。

佐藤委員 あの、自虐的というか、後ろを拝見していたら予算措置がすぐにはできないとかそ

ういった形のことであって、もっと深刻な事情が市の側にあったのかしら、と読みたくなるようなかなりきつい言葉で書かれていたのが、非常になんて言うんでしょう、業者はいいけど水道部が、と言われてしまわないかと心配になったのが個人的なコメントです。

余湖会長
武藤主査

これは多分、検討経過の遺物ですね。この辺の表現は。

はい、その通りです。提案をたくさんいただいて、いい内容の提案が色々あったんですけども、実際それをどこで採用できるかという問題になりますと、やはり様々な事情がありまして、難しいなというのがありました。

余湖会長

多少漏れ聞いたところによると、提案したもので市が具体的に対応したものについてだけ点数をつけるのか、あるいは提案したことに対して点数を点けるのかとか、そのあたりの意見の調整もかなりあったようで、その名残りとしてこういう表現が残ったと思うんです。ただこれは確かに表現としては、ちょっと変ですよ。

清野主査

この部分に関しましては、「市水道事業の厳しい財政状況などもあり、すぐさま採用できないものがあつた」と致します。

佐藤委員
余湖会長
阿部委員

後ろを拝見すると分かるんですけども、ここだけ見るとビックリしました。

他に、はい、どうぞ。

私、前に委託業者に対しての日報についてお尋ねしたことがあったんですけども、先ほど先生のほうからご指摘のあったとおり、日報を私実際見せていただきました。見ましたら、毎日出てくる日報は何も書いてないんです、中身が。今日何をしたか、どこの何を点検したか、最小限度表れているのかなと思ったんですけど、出てないんですね。それは機械とか施設の種類の種類とか、数が多いから点検したものは別紙でまた用紙があつて、それに点検項目があつて何ページにもなるんですね。それは日報とは別なんですね。

私は先ほど話が出たように、日報にはせめて今日一日ヒヤリ・ハットがあつたか無かつたか、そういうコメントが毎日の日報の中に一つでも二つでも気づいたことがあれば、それは是非とも毎日実行してもらいたい。それが私の願いです。どうでしょうか。

武藤主査

毎日の日報に関しましては、施設が12施設ありまして、毎日点検しております。電気・機械様々なところがありまして、そういったものを毎日毎日監督員が見るといふわけにはいきませんので、毎日の日報につきましては気が付いた点、行った業務、重要事項などを書いて、毎朝こちらのほうに送ってもらつて、それを監督員が見て評価してるといふ形にしております。

それで、先ほどありましたヒヤリ・ハットということですが、これは確かに重要なことですので、今回それを採用させていただいて、日報の中にそういったことはなかつたかどうか、そういった項目を入れていきたいと考えます。

余湖会長

よろしいですか。他にいかがでしょうか。

それではこの辺りでよろしいでしょうか。もう5時になりました。長時間ありがとうございました。

下野課長
余湖会長

これはまた次回に出ることになりますか。

はい、最終的に出来上がったものは、お見せいたします。

わかりました。

蛭谷主査

事務局からその他何かございますでしょうか。

それでは事務局から、その他の連絡事項等について申し上げます。

まず、本日の会議録の署名委員についてでありますけれども、今回は菅野副会長と佐藤委員にお願いをしたいと思います。

それから次回の運営委員会の開催についてでありますけれども、先程説明いたしました簡易水道地区の委託の中にもありまして、現在のところ11月の上旬頃を予定しております。この内容につきましてはまだ固まっておりますが、現在、簡水浜益地区で浄水施設の改修工事、それから何かと話題となっております西部企業団のダム又は浄水施設について、もし可能であれば現地視察を行い、皆様に見ていただく

のも一つの有意義な方法ではないかというふうに今事務局では考えているところ
です。

いずれにしても、この件につきましてはまた改めて連絡させていただきますが、
とりあえず次回は11月上旬を考えておりますことを...

余湖会長
蛭谷主査
余湖会長

11月なら寒いよね。

それでは、もう少し早い日程を検討させていただきます。

僕は当別ダムは春に見ましたけど、ものすごい突貫工事やっていますので、是非皆
さんに見ていただいたほうがいいと思いますので、その辺ご検討下さい。

蛭谷主査
余湖会長

是非検討させていただきます。以上です。

どうもありがとうございました。それでは今日の委員会これで終了いたします。

【17:05 終了】

平成21年10月29日議事録確定

石狩市水道事業運営委員会

会 長 余湖 典昭

議事録署名委員

菅野 勲

議事録署名委員

佐藤 雅代